



## アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No. 4 / 2006 年 4 月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第4号をお届けします。今回は、3月24日（金）に国士館大学で開催された通信ソサイエティ研専運営会議での資料から、「大会における講演件数の推移」と「研究会活動評価アンケート結果」を抜粋して、お届けします。

### 【1】大会における講演件数の推移

2000年以降の大会におけるAP研関連分野の発表につきましては、No.2（2006年2月）ですすでにお知らせしましたが、研専運営会議での報告に基づいて、1993年以降の大会における通信ソサイエティ（以下、通ソ）全体の講演件数の推移とそれに対応するAP研関連分野の講演件数の推移を合わせて示します。なお、図中の※印はここでは無視してください。

研専運営会議では、着目すべき点として、総合大会の通ソ全体の講演件数（図1.1）が2003年度以降単調減少しているとの報告がありましたが、AP研関連の講演件数（図1.3および図1.4）では、必ずしも通ソ全体と同じ傾向を示していないことがお分かり頂けるかと思えます。AP研の場合、東京開催ではなく地方開催の方が、講演件数が多いことが読み取れます。

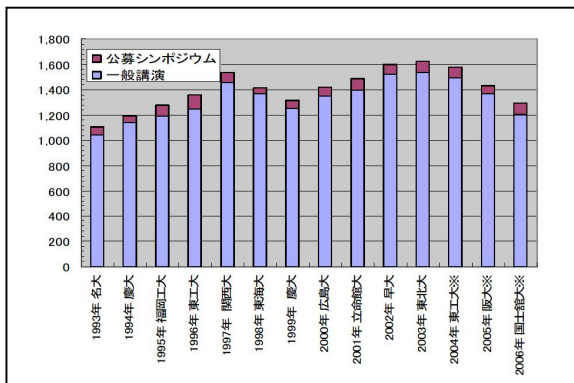


図 1.1 総合大会における通ソ全体の講演件数

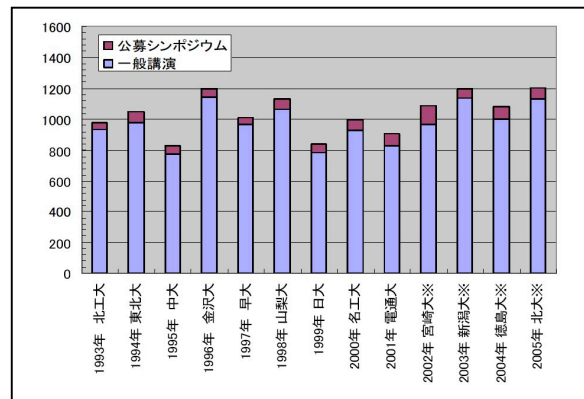


図 1.2 ソサイエティ大会における通ソ全体の講演件数

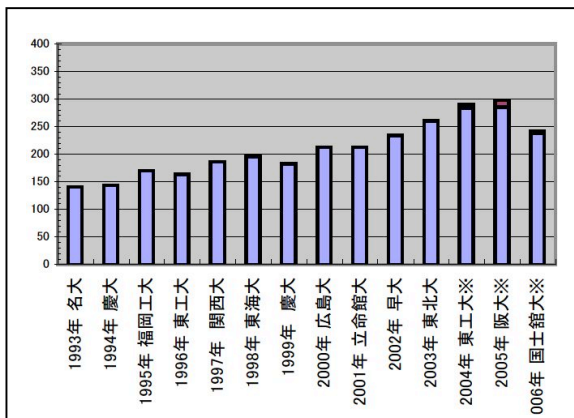


図 1.3 総合大会におけるAP研関連の講演件数

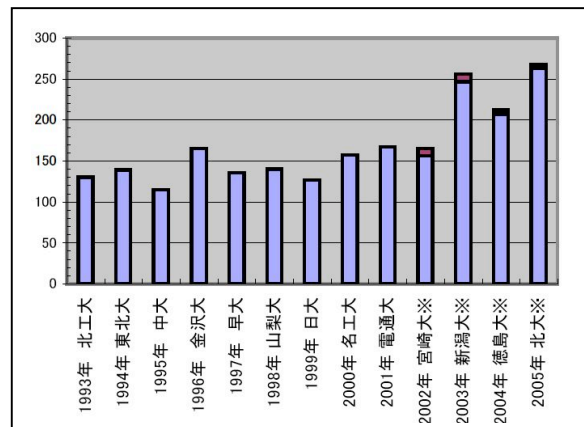
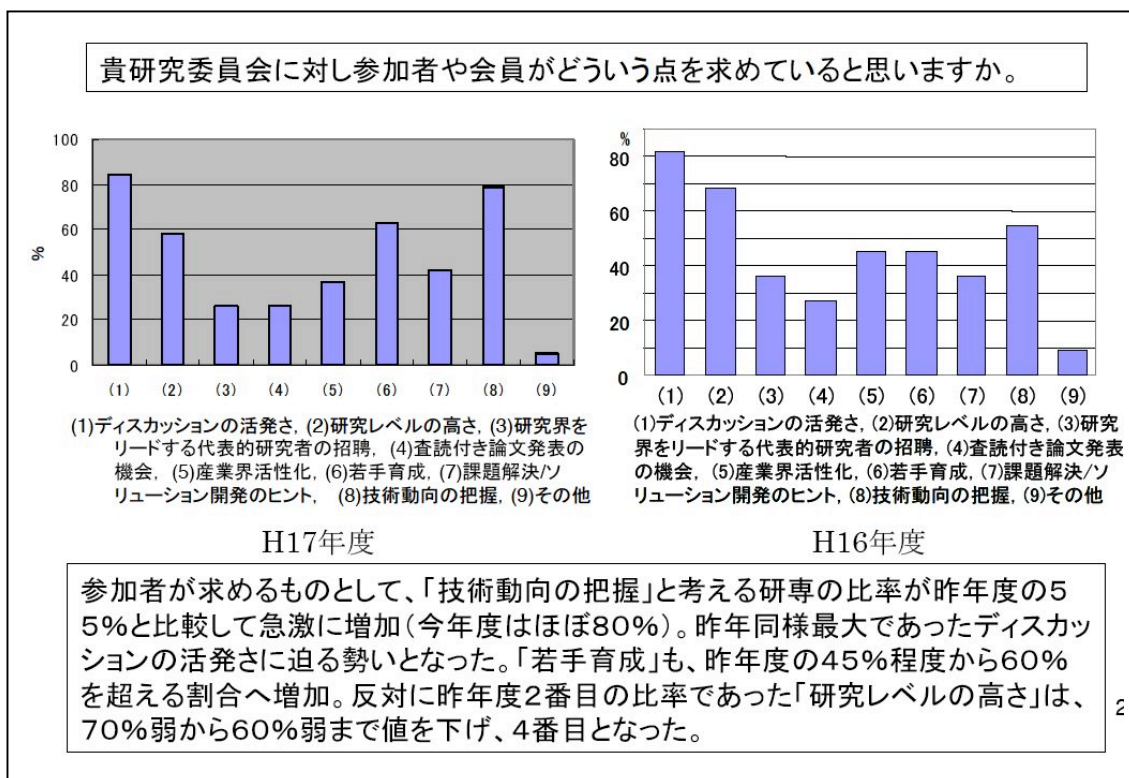


図 1.4 ソサイエティ大会におけるAP研関連の講演件数

## 【2】研究会活動評価アンケート結果

昨年11月に、通信ソサイエティの第一種、第二種、第三種の研究専門委員会役員に対して行われたアンケートから、「研究会に対する会員の期待」についての結果を示します。図中の評価に示されているように、「ディスカッションの活発さ」、「技術動向の把握」、「若手育成」、「研究レベルの高さ」を求めているとの結果ですが、皆様のお考えは如何でしょうか？是非、コメントをAP研幹事団（ap\_ac-chair@mail.ieice.org）までお寄せ下さい。



## 【3】AP研副委員長の戯言

4月です。豪雪といわれた今冬も、3月末になごりの雪を降らせて去っていきました。福井大学を今年退職された某教授によると、02 豪雪（1927年）、20 豪雪（1945年）、38 豪雪（1963年）、56 豪雪（1981年）と豪雪は18年間隔であったものが、今冬の「平成18 豪雪（2006年）」では25年ぶりであったとのこと。

東京では、3月末から4月始めが桜の見頃でしたが、福井では3月末のなごりの雪のせいもあって、4月10日前後が見頃となりそうです。この戯言が掲載されるときには、福井の桜も散っているでしょうが、一度、福井の足羽川沿いの桜並木をご覧においで下さい。幹の太さが2～3mにも及ぶ古木が延々と並んでおり、日本一といっても過言でない壮大な光景です。こんなすばらしい観光対象を持っていながら、福井には近郊を除き桜見物の観光客は殆ど来ません。残念ですが…



<問合せ先>

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 堀俊和（福井大学）

E-mail: ap\_ac-chair@mail.ieice.org